

八尾市

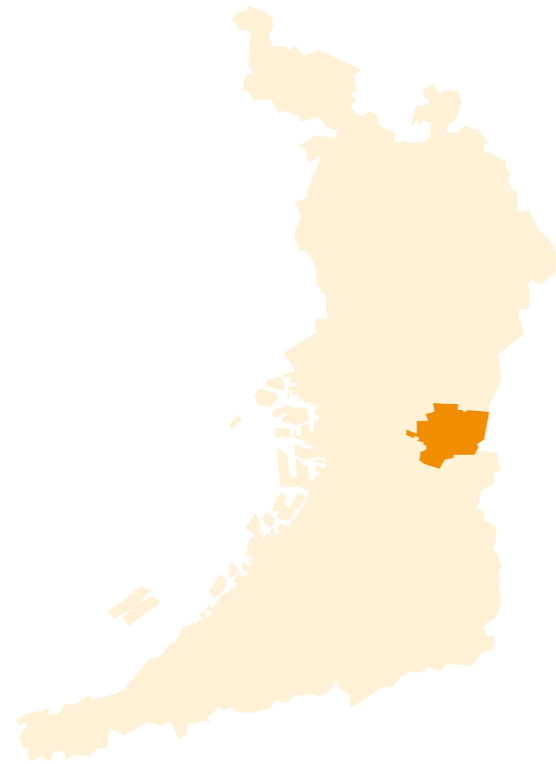
Yao City

総人口	在留外国人数	比率
257,351人	9,747人	3.79%

八尾市は大阪府のほぼ中央部に位置し、西は大阪市に隣接する人口約26万人の中核市です。

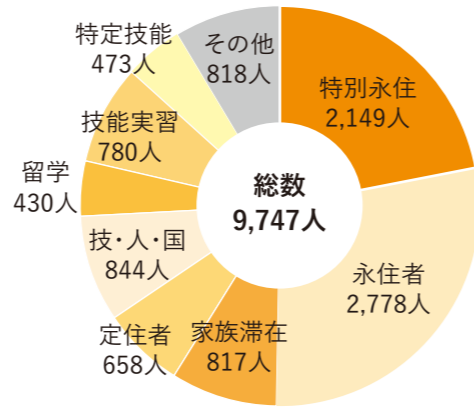
難波・天王寺・梅田などの大阪都心部へ電車で約10～30分と交通至便な立地にあり、空の玄関口として小型航空機の拠点・八尾空港も有しています。

中小企業を中心に高度な技術力と製品開発力を誇る「ものづくりのまち」として知られ、歴史・文化・産業が調和したまちとして発展しています。



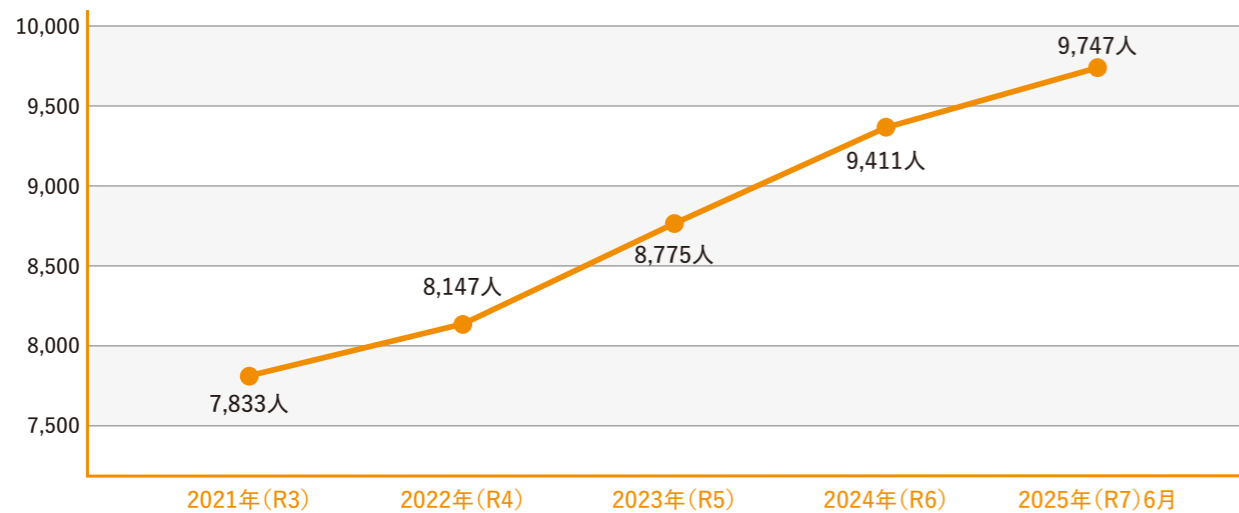
八尾市の特徴

八尾市は、2025年時点において大阪府下で4番目に外国籍住民が多い自治体です。歴史的経緯を持つ朝鮮半島出身者や中国帰国者、ベトナムからの渡日者に加え、近年は技能実習生や留学生など多様なルーツを持つ人々が暮らし、JR八尾駅周辺にはベトナム人コミュニティも形成されています。



法務省在留外国人統計 2025年6月より

外国人推移データ



法務省在留外国人統計 2025年6月より

01 福祉

重層的支援体制整備事業

健康福祉部 地域共生推進課、社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会

健康福祉部 地域共生推進課

顔の見える関係づくりと庁内連携の強化

八尾市では、地域共生社会の実現をめざし、「誰ひとり取り残さないしあわせを感じる共生のまち おせっかい日本一」を理念とする第4次八尾市地域福祉計画を2021(令和3)年3月に策定しました。計画期間は2021(令和3)年度～2028(令和10)年度で、2024(令和6)年度に中間評価と見直しを行っています。「おせっかい日本一」を合言葉に、外国籍の人も日本人も、困ったと

きに助け合えるまちを目指しています。相談に来た人を支援につなぐだけでなく、日頃から地域で顔見知りを増やし、孤立を防ぐ取組みを重視しており、市民からの相談に幅広く対応できるよう、部局間の情報共有会議を定期的開催するだけでなく、必要に応じて関係部署が集まる支援会議を行うなど、庁内連携を強化しています。

第4次八尾市地域福祉計画
(八尾市公式ホームページ)



社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会

外国人ボランティア参加の促進に向けて

市内32地区にある「地区福祉委員会」が、地域の見守りや助け合い(おせっかい活動)を最前線で担っています。社協のボランティアセンターでは、今年度のボランティア体験プログラムにおいて外国人から複数の申し込みがありました。申し込み方法を従来の電話・

FAXに加えてGoogleフォームも活用するなど参加のハードルを下げた結果、清掃活動や地区福祉委員会の活動に関心を持つ外国人が個人で参加しています。地域課題と一緒に取り組むつながりづくりを目指しています。

社会福祉法人
八尾市社会福祉協議会



02 多文化

多文化共生社会の推進

人権ふれあい部 人権政策課、公益財団法人 八尾市国際交流センター(YIC)

人権ふれあい部 人権政策課

当事者の声を市政に反映

2011(平成23)年度に「外国人市民会議」を設置し、現在第8期を迎えています。行政が一方的に方針を決めるのではなく、生活上の困りごとや提案を当事者から直接聴き取る場として位置づけています。会議からの提案により、母子健康手帳の多言語案内・配布の徹底や、国際交流センターでの多文化保育プログラムの始動など、具

体的な施策が実現しています。

また、外国人相談窓口の体制として、八尾市国際交流センターが基幹窓口(ワンストップ相談窓口)を担い、特定非営利活動法人トッカビがサテライトとして委託を受け、市内2か所の人権センターで対応している点も本市の大きな特徴といえます。

八尾市外国人市民会議 概要



公益財団法人 八尾市国際交流センター(YIC)

当事者の「やってみよう」を形にする「サークル活動」

ボランティアの「やってみよう」という自発的な提案を起点とした支援を行っています。その一つであるサークル活動は、外国人当事者を含むサークルリーダーが主体となって企画・運営し、ボランティアメンバーや在住外国人同士の交流の場となっています。センターは会場の提供や広報支援などを通じて取組みに伴走し、現在5つの多様なサークルが活動しています。

在住外国人の想いを形にした「多文化保育プログラム」

ガーナ出身の市内在住外国人から「小さい頃からさまざまな人種の人と関わることで偏見や怖さをなくしていきたい」という思いに基づいた活動の提案があったことをきっかけに、市内の子ども園等に出向いて1時間程度の「多文化保育プログラム」を実施しています。海外出身の講師の特技を活かしたプログラムを職員がサポートしながら企画して実施。幼児期から国際意識を育むことを目的として、歌、踊り、遊び、衣装やスライド写真など、さまざまな方法で子どもたちに文化を紹介し、子どもたちは楽しく慣れ親しんでいます。



サークル活動の様子(上段/右中段)
イベント広報チラシ(左下段)/多文化保育プログラムの様子(右下段)

公益財団法人 八尾市国際交流センター(YIC)



03 まちづくり

市民自治によるまちづくりの視点から

特定非営利活動法人 トッカビ、市民の声、外国人住民の声

特定非営利活動法人 トッカビ

外国人住民の地域参加を支える居場所づくり

八尾市国際センターから委託を受け、外国人相談サテライトの窓口として、2か所の市立人権コミュニティセンターでベトナム語および中国語での相談対応を行っています。また、「休眠預金活用法」に基づく資金をもとに、公営住宅を活用した多文化共生の居場所づくりに取り組んでいます。

小学校区の地域行事や取組みに、比較的若い世代が多い外国人の参加を促すため、新しい居場所を通じて「顔の見える」関係作りが進むよう取組みを進めています。さらに、学校とも連携して情報共有や意見交換を実施しており、子どもを起点として保護者と地域をつなぐ関係づくりを進めています。

特定非営利活動法人 トッカビ



公営住宅を活用した 多文化の居場所づくり



市民の声

日常の活動から広がる交流

西島 美砂子さん

公園の美観活動中、散歩に来るベトナム人の方々と挨拶を交わすうちに、自然に会話や交流が生まれました。活動は一人で始めましたが、近所の方が加わり、通りがかりの外国人が手伝ってくれることもあります。地域のルールに関する困りごとは、当人に直接言わずベトナム人の集まりで相談するなど、背景を理解した上でのコミュニケーションを心がけています。



西島 美砂子さん(中央)

地域とつながる日本語教室

平野 和美さん(高砂日本語教室)

20年以上前から、地域で外国人と日本人がつながれる場として日本語教室を開催しています。日本語を覚えて回覧板が読めるようになるなど、生活に役立つ力を身につけながら、地域の課題も一緒に考えることを目標にしています。また、うまく日本語を話せないと思っている人も、安心して来て、話せる、居心地のいい場所でありたいと思っています。



平野 和美さん(中央)

外国人住民の声

国籍に関係なく対等に交流できる「英語サークル」

グエン ティミン ニャットさん(ベトナム出身 日本で暮らして10年)

国籍に関係なく対等に交流できる場として、英語サークルを立ち上げました。日本語を用いた場合は緊張から発言が少なくなる傾向があるため、英語を共通言語にすることで言語の公平性を保ち、参加者が自由に話せる環境を構築しています。

活動はフリースタイル形式を採用しており、語学レベルやテーマを限定せずに全員が英語で発言しています。日本人だけでなく、ベトナム人や中国人など多国籍の人が参加しており、誰もが自己表現を行いながら相互理解を深めています。英語圏の文化にとどまらず、参加者それぞれの国の多様な文化について学ぶ場となっています。



母語教育の実施

T.H.さん(ベトナム出身 日本で暮らして9年)

来日時は日本語が話せませんでしたが、地域の支援で日常会話ができるようになりました。その経験への恩返しの気持ちから、現在は八尾市国際交流センターでベトナム語サークルを運営しています。「言葉を通じてお互いを理解し合える場をつくりたい」という思いが活動の背景にあります。日本語を学ぶ過程で多くの人のつながりに支えられてきた経験から、言葉と交流の両方を大切にしたい場づくりを目指しています。

先に住む人が新しく来た人をサポート

ワエド マジッドさん(シリア出身 日本で暮らして10年)

八尾市国際交流センターの「夏休みワールド講座」において、アラビアやシリアの文化を地域の親子に講師として伝えました。その後、市内小学校でも子どもたち向けに文化紹介をする講師として招かれました。現在は学校現場で通訳・翻訳の業務に携わっています。また、勤務している小学校では、アラビア語圏出身の保護者の通訳を担当し、先生との懇談や家庭訪問の際のコミュニケーションを支援しています。さらに身近な支援としては、家族である弟の就職活動や行政手続きの手伝いもしています。地域に長く住む人が新しく来た人を支えることが大切だと考え、このような活動を行っています。

